

## 26. 高血圧性脳出血に対する OHP の効果—基底核出血と視床出血—

鎌田 桂 金谷春之\* 高橋 清  
小笠原孝司

(岩手医大高気圧環境治療室, \*脳神経外科)

【目的】脳血管障害に対する OHP の応用については、近年多くの有効性を示唆する報告が見られるが細部の適応についてはあまり検討されていない。我々は高血圧性脳出血に対して OHP を行い、どのような症例について有効であるかを検討した。

【方法】1983年1月より1985年4月までの期間に OHP を行った高血圧性脳出血42例中基底核出血27例(男16, 女11, 平均年齢53.3歳), 視床出血6例(男4, 女1, 平均年齢64歳)を対象として、神経学的重症度 NG (脳卒中の外科研究会), 発症または手術から OHP までの期間, OHP の回数および期間とその前後の意識, 運動障害, 言語障害の程度により判定し, 併せて脳波, 脳循環測定を行った。OHP は 2.8ATA, 減圧時間を含め 1 回 100~140分で行った。

【結果】発症または手術から OHP までの期間は基底核出血, 視床出血共に平均34.3日, OHP の回数は12.3回, 10.2回, 期間は25.9日, 19.7日でやや前者の方が多い。基底核出血の入院時 NGV (1例) IV b (7例) IV a (6例) では, 手術から OHP まで1カ月未満の例では有効83%であったがそれ以後では13%であった。NG III (3例) II (9例) I (1例) では, 69日目より行った1例と片マヒの改善を目的として12日目より行った1例を除いて有効85%であった。有効例, 無効例の OHP 回数は11.7, 13.3回, 治療日数25.9, 25.8日で差を認めなかった。改善を見た症状では意識障害44.4%, 運動障害14.8%, 言語障害57.1%であった。視床出血例では非手術例の1例に意識の改善を認めたのみであった。

高血圧性脳出血の NG IV a から V は予後不良であるが, 発症1カ月未満からの OHP の開始は症状の改善に有効と思われた。

## 27. 脳血管障害急性期虚血脳に対する高気圧酸素療法と Perfluorochemicals の併用治療効果について

岩渕 崇 遠藤英雄 鎌田 桂  
斉木 巖 金谷春之

(岩手医科大学脳神経外科)

【目的】慢性期脳血管障害虚血脳に対する Perfluorochemicals (PFC) の使用により局所脳循環 (rCBF) が15%前後増加し, 臨床症状は意識障害および運動障害の改善が認められることを報告してきた。今回は PFC の酸素溶解能が高いことを利用し, 高気圧酸素治療下での PFC 使用効果を rCBF, 脳波フーリエ解析 (EEG) および臨床症状の面より PFC 単独使用群と比較検討した。

【対象】発作から2週間以内の高血圧性脳出血7例と脳梗塞2例を用いた。内訳は PFC 単独使用群4例, OHP+PFC 群は5例である。rCBF は治療前後で測定し, EEG・フーリエ解析は, 治療前, 中, 後にそれぞれ測定した。rCBF 測定には Single Photon Emission CT を用い, EEG・フーリエ解析には日立社製 FFT analyser を用いた。

【結果】(1) PFC 単独使用群 (4例): 投与中 EEG・フーリエ解析にて Peak-amplitude の増大および  $\alpha$  帯域の平均 amplitude の増加に代表される EEG の改善が各々3例 (75%) に認められた。投与後の rCBF は, 測定しえた1例では病側で23%, 健側で9%増加し, 症状の改善は2例 (50%) に認められた。(2) OHP+PFC 群 (5例): 治療中 (高圧タンク内) の EEG および臨床症状の改善は各々4例 (80%) に認められた。しかし, 治療後では rCBF は2例 (40%) で15%前後増加したが2例で不変, 1例は約10%低下した。また, その時の EEG は治療前に復する傾向を示し, 臨床症状も同様の傾向を認めた。

【まとめ】治療中における EEG・フーリエ解析の改善は両群で明確な差を認めず, 今後, PFC の高圧環境下での酸素溶解能につき検討を要するが, 臨床症状の改善度は PFC+OHP 群で良好であり, OHP の上乘せ効果が推定された。